



北信のシームレスながん医療を担う人材養成

NEXT GENERATION HOKUSHIN CANCER PROFESSIONAL COURSE GUIDELINES

次世代北信がんプロ履修要項



履修申込
サイトはこちら





福井大学次世代北信がんプロ 教育プログラム 大学院正規課程コース

・統合型がん医療専門医コース



福井大学
次世代北信がんプロHP



教育プログラム・コースの概要

大 学 名 等	福井大学大学院医学系研究科統合先進医学専攻
教育プログラム・コース名	統合型がん医療専門医コース(大学院正規課程コース)
対象職種・分野	医師
修業年限(期間)	4 年
養成すべき人材像	がん医療に携わる専門的な知識及び技能に加えて、診療科横断的に腫瘍について学び、高エネルギー医学研究センターや陽子線治療センターを有する本学・本県の特徴を活かし、最新のPET、MRIの機能画像診断や陽子線治療に習熟した医師を養成する。さらに緩和ケアについて学ぶことで、病院から在宅までの切れ目のないケアや診断早期からのケアを実践できるようになり、チーム医療のリーダーを養成する。
修了要件・履修方法	<修了要件> 共通科目16単位、各部門の科目 8 単位以上、分野専門科目 6 単位以上を含む30単位以上を取得し、がんに関する研究論文が学位審査に合格すること。なお、腫瘍医学部門の科目においては、腫瘍専門科目(北信がんプロ科目)との読み代えにより、修了要件の単位数に算入する。 <履修方法> e-learning教材、Web会議によるセミナー、演習等で履修する。
履修科目等	<共通科目> 医科学基礎総論(4 単位)、医科学特論(6 単位)、先端応用医学概論(6 単位) <選択科目> 臨床腫瘍学特論(4 単位)、臨床腫瘍学演習Ⅰ(2 単位)、臨床腫瘍学演習Ⅱ(4 単位)、器官再生生物医学(2 単位)、器官再生生物医学演習(4 単位)、病態情報解析医学特論Ⅰ(2 単位)、病態情報解析医学演習Ⅰ(4 単位)、機能画像医学特論Ⅱ(2 単位)、機能画像医学演習(4 単位)他 新設する北信がんプロe-learning科目(がん医療現場の課題特論(1 単位)、がん予防推進特論(1 単位)、新規治療法開発特論(1 単位))ならびに従来の北信がんプロe-learning科目 がんゲノム学特論(1 単位)、小児・AYA・希少がん特論(1 単位)、がんライフステージに応じたがん医療学(1 単位)、がん緩和医療学特論(1 単位)、臨床栄養学特論(1 単位)
がんに関する専門資格との連携	外科専門医(日本外科学会)、消化器外科専門医(日本消化器外科学会)、内科専門医(日本内科学会)、がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)、病理専門医(日本病理学会)、放射線科専門医ならびに放射線治療専門医(日本医学放射線学会)、麻酔科専門医(日本麻酔科学会)、がん治療認定医(日本がん治療認定医機構)、骨・軟部腫瘍医(日本整形外科学会)等の研修施設として認定。
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	従来の統合先進医学専攻 先端応用医学コース 腫瘍医学部門または器官再生医学部門の科目に加えて、北信がんプロ養成プログラムの科目と本学医科学コースの機能画像医学部門(高エネルギー医学研究センター担当)の科目を履修することにより、最新のがん治療と緩和ケアなどの苦痛へのケアを同時に学び、最先端の画像診断能力の知識も修得できる。
指導体制	緩和医療などチーム医療ならびに臨床腫瘍学に精通した福井大学腫瘍病態治療学講座及び福井大学の様々な診療科の教職員が対応することで集学的がん治療と診療科横断ならびに多職種連携を実践できるようにする。
修了者の進路・キャリアパス	修了者は、自身の専門分野に加えて、診療科横断的ながんの診断・治療を習得し統合的がん医療を行えるとともに、緩和ケアにも精通することで緩和ケアなどのチーム医療のリーダーとしても拠点病院や地域での活躍が期待できる。これによりシームレスながん医療を行えるようになる。
受入開始時期	令和6年4月



福井大学次世代北信がんプロ 教育プログラム インテンシブコース

- ・ シームレス型緩和医療コース
- ・ シームレス型栄養管理コース



福井大学
次世代北信がんプロHP



教育プログラム・コースの概要

大 学 名 等	福井大学医学部
教育プログラム・コース名	シームレス型緩和医療コース(インテンシブコース)
対象職種・分野	医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、運動療法士、その他の医療スタッフ
修業年限(期間)	1年(延長可)
養成すべき人材像	がん治療において早期から適切な緩和医療を行うことで患者のQOLの向上を図るとともに治療成績の向上にも寄与することが期待される。また、終末期がん患者や慢性疾患の終末期を在宅で療養する場合にも地域の医療資源として緩和医療を安全かつ有効に行うことができる医療者を養成する。急性期病院に勤務する医療者から在宅医療に関わる医療者又は地域の調剤薬剤師、その他地域の医療者が対象となる。
修了要件・履修方法	<修了要件> 必修科目と選択科目(e-learning)計2単位を履修すること。演習としてがんプロオンコロジーセミナーにおける症例検討会に2回以上参加すること。演習は国の定める緩和ケア研修会の受講をこれにあてることができる。 <履修方法> e-learning教材、Web会議によるセミナー、演習等で履修する。
履修科目等	<必修科目> <u>がん医療現場の課題特論(1単位)</u> <選択科目> <u>がん予防推進特論(1単位)</u>、<u>新規治療法開発特論(1単位)</u>、従来の北信がんプロe-learning <u>がん緩和医療学特論(1単位)</u>、在宅緩和ケア特論(1単位)、臨床栄養学特論(1単位)のうちから1単位 <演習科目> がんプロオンコロジーセミナーなど演習対象の各種web研修会に2回以上参加する。又は国の定める緩和ケア研修会の受講。
がんに関する専門資格との連携	緩和医療専門医(日本緩和医療学会)の研修施設として認定。
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	診療科、職種を超えたシームレスな連携を行うことが出来る医療者を養成する。また、北陸地域で用いられている在宅緩和医療パスを用いて、病院から在宅へのシームレスな連携を行うための医療者を養成する。
指導体制	北陸信州の大学緩和ケアチームと日本緩和医療学会専門医、認定医が中心に教育を行う。日本緩和医療学会緩和ケア研修会が研修をサポートする。
修了者の進路・キャリアパス	コース修了者は、医師では施設の緩和ケアチーム医師、緩和ケア病棟医師、地域緩和ケアチームのリーダーとしての活躍が期待できる。また、日本緩和医療学会の専門医を目指す為の教育を提供できる。医師以外のスタッフでは、地域緩和ケアチームのスタッフとして期待される。
受入開始時期	令和5年11月

教育プログラム・コースの概要

大 学 名 等	福井大学医学部
教育プログラム・コース名	シームレス型栄養管理コース(インテンシブコース)
対象職種・分野	医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、運動療法士、その他の医療スタッフ
修業年限(期間)	1年(延長可)
養成すべき人材像	栄養学は医療の基本であり、がん医療においても必須の医療技術である。近年はがん悪液質やサルコペニアへの対応も求められ、様々な状況下でがん治療の継続を図るには臨床栄養の知識を持った医療者を養成する必要がある。 在宅医療においても、経口摂取の維持、経管栄養、静脈栄養など患者の状態に最も適した栄養管理を安全に行う事が求められ、地域の医療資源として病院から在宅へ移行しても栄養管理を継続できる医療者も同時に養成する必要がある。この研修は、医療の現場でのNST活動の活性化にも繋がる。
修了要件・履修方法	<修了要件> 必修科目と選択科目(e-learning)計2単位を履修すること。演習としてがんプロオンコロジーセミナーにおける症例検討会に2回以上参加すること。演習は日本臨床栄養代謝学会認定教育施設にて20時間以上の研修又は以下の研修を持ってこれに代えることができる。医師にあっては、日本臨床栄養代謝学会/日本外科栄養代謝学会の開催するNST医師・歯科医師教育セミナーを受講。医師以外のスタッフは、日本臨床栄養代謝学会の開催するNST専門療法師資格セミナーを受講。 <履修方法> e-learning教材、Web会議によるセミナー、演習等で履修する。
履修科目等	<必修科目> がん医療現場の課題特論(1単位) <選択科目> がん予防推進特論(1単位)、新規治療法開発特論(1単位)、従来の北信がんプロe-learning臨床栄養学特論(1単位)、がん緩和医療学特論(1単位)、在宅緩和ケア特論(1単位)のうちから1単位 <演習科目> がんプロオンコロジーセミナーなど演習対象の各種web研修会に2回以上参加する。又はNST実習(20時間)または、医師：日本臨床栄養代謝学会の開催するNST医師・歯科医師教育セミナーを受講。医師以外：日本臨床栄養代謝学会の開催するNST専門療法師セミナー受講。
がんに関する専門資格との連携	認定医・指導医ならびに臨床栄養代謝専門療法士(がん専門療法士)(日本臨床栄養代謝学会)の研修施設として認定。
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	がん医療を推進する上で栄養管理は最も重要な技術の一つである。 周術期合併症の軽減、化学療法の継続、がん悪液質への移行の予防などを理解し行える医療人を育成出来る。 また、終末期のQOLを高く維持するためにも管理技術の習得を要する。拠点病院と在宅のスタッフがこのインテンシブコースを履修することで、シームレスな在宅移行が可能となる。 また、地域の各職種の栄養管理技術がレベルアップすることで、安全かつ満足度の高いがん医療が実現できる。
指導体制	福井大学医学部附属病院をはじめ、各大学病院の栄養サポートチームが中心となる。 日本臨床栄養代謝学会認定教育施設の研修サポートを受ける事ができる。 また欧州臨床栄養代謝学会のLLL Diplomaならびに講師資格を持つ者も指導に当たる。
修了者の進路・キャリアパス	コース修了者は、医師ではNSTのチェアマン、地域NSTの指導者として期待される。 医師以外のスタッフは、日本臨床栄養代謝学会認定NST専門療法士、さらに臨床栄養代謝専門療法士(がん専門療法士)資格の取得をめざすことができる。 がん治療における栄養管理に深く関わる事が期待できる。
受入開始時期	令和5年11月